平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【共通】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWC1011	初　期　演　習	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念、立学の精神、さらに本学の歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培う。講義の中で、本を読む、文章を書くなど、大学生の基礎的な能力を養うとともに、学生および教員との人間関係の基礎を身につける。このような講義を実施し、学部・学科の教育目標を達成するように導く。	1．「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2．主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3．学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4．女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。						○	○		◎	◎	○	◎	◎	
18UPWC1021	心 理 学 概 論 A	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方と方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1．心理学の成り立ちについて概説できる。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3．心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎										○			
18UPWC1031	心 理 学 概 論 B	1	対人援助を支える科学としての心理学について、基本的な考え方と方法論を理解することを目的とする。特に、心理学における人の理解とそのための技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康について、理解を深化させる。	1．心理学の成り立ちについて概説できる。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。 3．心理学の基礎的な概念・用語・研究結果を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる。	◎										○			○
18UPWC1041	ソーシャルワーク概論A	1	1．社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。 2．精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 3．相談援助の概念と範囲について理解する。 4．相談援助の理念について理解する。 5．相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 6．相談援助に係る専門職の概念と範囲および専門職倫理について理解する。 7．総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1．社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義および専門性について説明できる。 2．ソーシャルワークに係る各種の国際定義を説明できる。 3．ソーシャルワークの形成過程を説明できる。 4．相談援助に係る専門職の概念と範囲について説明できる。 5．相談援助の理念である人権尊重および社会正義について説明できる。 6．ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義と内容について説明できる。 7．ジェネラリストの視点に基く多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容について説明できる。		◎									○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWC1051	ソーシャルワーク概論Ｂ	1	１．社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。 ２．精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ３．相談援助の概念と範囲について理解する。 ４．相談援助の理念について理解する。 ５．相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ６．相談援助に係る専門職の概念と範囲および専門職倫理について理解する。 ７．総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	１．社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義および専門性について説明できる。 ２．相談援助の理念である利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーションについて説明できる。 ３．相談援助に係る専門職の概念と範囲について説明できる。 ４．専門職倫理の概念と倫理的ジレンマについて説明できる。 ５．ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義と内容について説明できる。 ６．ジェネラリストの視点に基く多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容について説明できる。		◎								○			
18UPWC1063	人体の構造と機能及び疾病	1	１．心身機能と身体構造およびさまざまな疾病や障害の概要について、人の成長・発達、日常生活との関連を踏まえて理解する。 ２．がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解する。 ３．国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的な考え方と概要について理解する。 ４．リハビリテーションの概要について理解する。 ５．身体疾患が疑われる場合に、医師への紹介等の対応が必要かどうか判断できる。	１．人の成長・発達・老化、心身機能と身体構造、およびさまざまな疾病（悪性腫瘍、生活習慣病、感染症その他）や身体障害・精神障害などの障害について概説できる。 ２．心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。 ３．健康の概念と国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的な考え方について概説できる。 ４．リハビリテーションについて概説できる。 ５．身体疾患が疑われる場合に、必要に応じて医師への紹介等の対応ができる。	◎	◎								○			
18UPWC3013	社　会　学	3	社会福祉士・精神保健福祉士に必要な以下の内容について学ぶことにより、社会学の基本的なものの見方や考え方を理解する。 （１）現代社会の特質 （２）現代社会における家族や地域社会 （３）現代の社会問題	１．他者に共感する力および自己の在り方を批判的に省察する力を涵養することができる。 ２．社会を多角的にみるための社会学的センスを磨くことができる。		◎							○			○		
18UPWC3023	関係行政論	3	心理・社会福祉に関する支援を求められる分野における法律、制度を理解する。	１．保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ２．福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ３．教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ４．司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 ５．産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。	◎	◎		○	○				○		○	○		
18UPWC1073	レクリエーション概論	1	レクリエーションについての基本的理論を習得し、社会変化に伴うレクリエーションの社会的意義、役割について理解する。	１．レクリエーションの基本的な考え方を理解する。 ２．レクリエーションが展開される分野を概観しながら、現代社会の抱えるさまざまな問題や課題に対してレクリエーションが果たす役割について学び、実践力に結びつく知識を習得する。			◎	○	○	○	○		○	○		○		
18UPWC1083	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ	1	さまざまな領域の人々が、人間交流を通じて楽しさを体験できるレクリエーション活動について学習し、その活動を活用しながら、コミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身につける。	１．レクリエーション活動の内容を理解し、必要な技術を習得する。 ２．集団や個人とコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を習得する。 ３．集団において良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」を習得する。			○				◎			○		○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWC1091	情報リテラシーⅠ	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	1．本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 2．基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 3．レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。								◎						
18UPWC1103	情報リテラシーⅡ	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシーⅠ」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連携的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。								◎						
18UPWC1111	英　語　Ⅰ	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1．基礎的な文法事項を理解できる。 2．英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。						◎								
18UPWC1121	英　語　Ⅱ	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1．基礎的な文法事項を理解できる。 2．英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。						◎								
18UPWC1133	Oral Communication Ⅰ	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1．英語の基礎文法や語彙を理解する。 2．基本的な英語会話ができる。						◎								
18UPWC1143	Oral Communication Ⅱ	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1．英語の基礎文法や語彙を理解する。 2．さまざまな場面での基本的な会話ができる。						◎								
18UPWC1153	心理学研究法	1	心理学研究の基本的な論理、プロセス、および研究アプローチについて理解する。	1．心理学を研究する上での心構えを身につける。 2．心理学の研究を実施する際に、最低限知っておく必要のある知識やテクニックを身につける。 3．心理学における質的研究および量的研究を含む実証的研究法について概説できる。 4．データを用いた実証的な思考方法を修得している。 5．心理学研究における研究倫理について理解している。	◎			○										
18UPWC1163	臨床心理学概論	1	臨床心理学とは何かについて、基本的なものの見方、考え方を理解することを目的とする。臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、さまざまな臨床領域で実践されている心理的援助についても学ぶ。	1．臨床心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 2．臨床心理学の代表的な理論と具体的な援助方法を学ぶ。 3．臨床心理学の成り立ちについて概説できる。	◎			○	○						○	○		
18UPWC1173	知覚・認知心理学（知覚）	1	実証事例を通じて、感覚・知覚のしくみ、およびその障害に関する基礎的な知識を理解する。	1．人の感覚・知覚等の機序（メカニズム）およびその障害について概説できる。 2．知覚心理学について基礎的知識を得る。	◎			○							○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWC1183	発　達　心　理　学	1	発達心理学の基礎的な概念・用語と、胎児期から高齢期までの発達の概要について理解し、生涯にわたる連続した発達について、心理学における基本的な理論を理解する。	1．発達心理学の基礎的な概念・用語を理解し、胎児期から高齢期までの発達の概要をイメージできる。 2．認知機能の発達および感情・社会性の発達について概説できる。 3．自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 4．誕生から死に至るまでの生涯における発達および各発達段階での特長について説明できる。 5．発達障害等非定型発達について基本的な事項や考え方を概説できる。 6．高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。 7．多様な概念を整理し、互いを関連づけながら、日常の身近な現象と結びつけることができる。	◎								○		○	○		
18UPWC1193	権利擁護と成年後見制度	1	社会福祉学の価値の一つである人権の尊重を中心に、法の基本原理（成年後見制度含む）を理解する。	相談援助職として法（日本国憲法の基本原理、民法（成年後見制度含む）・行政法）を活用する知識を得るとともに、専門職としての素養を身につける。		◎					○							
18UPWC1203	精神保健福祉援助技術総論	1	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携について知る。	精神保健福祉援助技術に関する下記の項目について各個別事象から理解することができる。 （1）精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方 （2）相談援助に係わる専門職の概念と範囲 （3）精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 （4）精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容		◎								○				
18UPWC1213	精　神　保　健　学　A	1	1．精神の健康についての基本的な考え方と、精神保健学の役割について理解する。 2．現代社会における精神保健の諸課題について理解する。	1．精神の健康と、それに関係する要因（ストレス、ライフサイクル、生活習慣など）、および精神保健の概要について説明できる。 2．精神保健から見た、家族、学校教育などの課題と、それらへのアプローチについて説明できる。	◎	◎			○									
18UPWC1223	精　神　保　健　学　B	1	1．精神保健学Ａに引き続き、現代社会における精神保健の諸課題について理解する。 2．精神保健の実際、および精神保健福祉士の役割について理解する。 3．精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 4．国際連合の精神保健活動や、他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。	1．精神保健から見た、勤労者、その他の現代社会の課題と、それらへのアプローチについて説明できる。 2．精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割について概説できる。 3．地域精神保健に関する諸活動について説明できる。精神保健に関する今なお残る偏見・差別等の課題を指摘できる。 4．精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、諸団体等の役割、およびそれらの間の連携について説明できる。 5．諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説できる。	◎	◎			○									
18UPWC1233	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	1．日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 2．ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 3．グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 4．将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。						◎							○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWC1243	生命科学と倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	1．科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 2．哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 3．発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。				○	○	○					◎			
18UPWC1253	地域活性化システム論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目標とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	1．医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 2．自分の居住地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 3．総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。					○						○	◎		
18UPWC3033	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚しい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	1．専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 2．共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 3．実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 4．本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。				○	○						○			◎
18UPWC1263	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を実践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	1．学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 2．グループが１つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 3．異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。				○	○	○	◎		○				○	○

平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【心理コース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP2013	心理学統計法（基礎）	2	心理学で用いられる統計手法について理解するとともに、統計学的基礎概念・実験や調査の方法論的概念等を理解する。	1．統計に関する基礎的な知識を習得している。 2．分散分析・t検定・ノンパラメトリック検定に関する知識を習得している。 3．実験計画に基づき、適切な分析方法を選択することができる。 4．心理学で用いられる統計手法について概説できる。	○			◎							○			
18UPWP2023	心理学統計法（応用）	2	心理学で用いられる統計手法について理解するとともに、統計学的基礎概念・実験や調査の方法論的概念等を理解する。	1．統計に関する基礎的な知識を習得している。 2．多変量解析に関する基本的な知識を習得している。 3．実験計画に基づき、適切な分析方法を選択することができる。 4．相関分析・回帰分析・主成分分析・因子分析の分析結果を解釈することができる。 5．心理学で用いられる統計手法について概説できる。	○			◎							○			
18UPWP2033	心理学実験Ⅰ	2	心理学の基礎的な実験・測定方法に習熟し、３年次以降の卒論研究に資する方法論的基礎（実験の計画・実験方法・統計分析とその解釈など）を形成する。	1．実証的研究の実践に関する基礎的スキルを習得している。 2．実験データの収集および処理を適切に行う基礎的スキルを習得している。 3．実験の計画を立てる基礎的スキルを習得している。 4．実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成する基礎的スキルを習得している。 5．統計に関する基礎的な知識を有し、研究に必要な情報収集スキルの基礎を習得している。	○			◎		○	○	○	○	○	○	○		
18UPWP2043	心理学実験Ⅱ	2	心理学の応用的な実験・測定方法を経験し、３年次以降の卒論研究に資する方法論的基礎を形成する。	1．実証的研究の実践に関する応用的スキルを習得している。 2．実験データの収集および処理を適切に行う応用的スキルを習得している。 3．実験の計画を立てる応用的スキルを習得している。 4．実験の結果について適切な解釈ができ、卒業論文レベルの報告書を作成する応用的スキルを習得している。	○			◎		○	○	○	○	○	○	○		
18UPWP2053	心理的アセスメント（概論）	2	心理的アセスメント（心理査定）についての基本的な知識を身につけることを目的とする。心理査定、観察および面接の目的や倫理、方法や関わりなどを身につけ、心理的支援に必要なクライエントを理解する際の観点を学ぶ。また、心理検査の基本的な性質も講義形式で学ぶ。	1．生育歴や家族の状況等の心理的アセスメントに有効な情報およびその把握の手法等について概説できる。 2．心理に関する支援を要する者等に対する関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。 3．心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義および限界について概説できる。 4．心理検査の実施、採点および解釈方法をおおよそ理解できる。	◎			◎			○		○	○	○	○	○	○
18UPWP3013	心理的アセスメント（実習）	3	心理的アセスメントを実際に実施し、アセスメントの実施方法、目的、結果の解釈方法を理解する。さらに心理的アセスメントの有効性と限界について学ぶことにより、心理的アセスメントについての理解を深める。	1．心理検査の適用および実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができる。 2．適切に記録、報告、振り返り等を行うことができる。 3．アセスメント結果を理解し、適切な報告書を作成できる。	○			◎		○	○		○	○	○	○	○	○
18UPWP2063	知覚・認知心理学（認知）	2	主に社会的認知研究と日常認知研究について講義する。人間の認知（感情、記憶、思考など）のプロセスおよびその障害について、実証研究を通じ、総合的に理解する。	1．人の認知・思考等の機序（メカニズム）およびその障害について概説できる。 2．認知心理学について基礎的知識を得る。 3．日常生活に認知心理学の知識が役立つことを理解することができる。	◎			○							○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP2073	学習・言語心理学（学習）	2	学習心理学における主要なテーマである条件づけと記憶の理論について理解することを目的とする。	1．経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 2．学習や記憶に関するさまざまな理論や仕組みを知り、それらを日常場面と結びつけて理解できる。	○										◎	○		
18UPWP4013	学習・言語心理学（言語）	4	ことばに関するさまざまな心理学的・言語学的研究事例の紹介と検討を通して、人間が言語を扱う能力や運用のしくみ、言語を習得していく過程などを学ぶ。	1．人が言語を扱う能力に関する学問的知識を習得している。 2．言語運用やコミュニケーションに関する学問的知識を有している。 3．論理的・客観的思考力を身につける。 4．言語の習得における機序について解説できる。	◎			○		○			○	○		○		
18UPWP4023	感情・人格心理学（感情）	4	人間の感情に関する理論やメカニズムを学ぶことを通して、感情と行動の関係を理解し、感情心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1．感情に関する理論および感情喚起の機序（メカニズム）について概説できる。 2．感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 3．感情心理学について幅広く基礎的知識を得る。	◎												○	
18UPWP3023	感情・人格心理学（人格）	3	人格（パーソナリティ）の諸理論を概観し、人格とは何かを理解し、人格がどのように形成され、表出されるのかについて学び、人格心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1．人格（パーソナリティ）の概念および形成過程について概説できる。 2．パーソナリティについて行われてきた基礎的研究について理解し、パーソナリティの類型、特性等について概説できる。 3．様々な日常場面において、パーソナリティが実際にはどのように影響するかについて学ぶ。	◎										○	○		
18UPWP3033	神経・生理心理学（生理）	3	人間行動の基本的メカニズムに関する生理学的側面からの理解を目的とし、生理心理学の基礎となる神経系の構造と働きおよび、脳・身体と行動との関係を理解する。	1．脳神経系の構造および機能について概説できる。 2．記憶、感情、ストレス等の生理学的反応の機序（メカニズム）について概説できる。	○										◎			
18UPWP3043	神経・生理心理学（神経）	3	脳の構造と正常なはたらきを理解したうえで、失語症、失認症、失行症などの高次脳機能障害および発達障害にみられる神経心理症状について学ぶ。これらの理解を通して高次脳機能障害者や発達障害児（者）の内的世界への洞察を深め、適切な臨床的態度を身につけることを目指す。	1．脳神経系の構造および機能について概説できる。 2．高次脳機能の障害および必要な支援について説明できる。 3．脳障害者や発達障害児（者）の行動や内的世界への洞察を深め、脳障害や発達障害に関する基礎知識を習得する。 4．脳障害者や発達障害児（者）の行動や心理を、その表面的な特性に振り回されるのではなく、本質的課題を見極め、共感的に理解できる能力を養う。	○			○					○	○	◎	○	○	○
18UPWP2083	社会・集団・家族心理学（社会・集団）	2	社会心理学ならびに集団心理学の目的である、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するために、社会的行動の規則性ないし法則性を理解する。	1．社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解する。 2．対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できる。 3．人の態度および行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。 4．科学的な視点から人間行動を理解する方法を獲得する。 5．日常的な行動のメカニズムについて、科学的・論理的に分析することができる。 6．社会・集団心理学の知識を対人場面の問題解決に適用することができる。	○			○							◎	○	○	
18UPWP4033	社会・集団・家族心理学（家族）	4	本講義は、社会、集団、家族に関連した心理学について講義を実施する。講義では、家族、集団、文化が人に及ぼす影響について学ぶ。そして、家族や家族の心理について自分の考えを持つことができ、さらに、他の学生とも意見交換を行い、社会、集団、家族心理学について理解する。	1．家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 2．自分の考えと他者の意見を双方向に交流させることができる。 3．その上で家族と家族心理についての、自分の考えをしっかり持つことができる。	○						○			○	◎	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP3053	障害者・障害児心理学	3	各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。	1．身体障害、知的障害および精神障害について概説できる。 2．障害者、障害児の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎							○		○	○		
18UPWP2093	心理学的支援法	2	心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援の理論と技法について体系的に学ぶ。また、実際の臨床現場で心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援がどのように行われているのかも知る。	1．心理的支援を要するクライエントの心理学的問題を適切に理解する。 2．代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義および適応について概説できる。 3．訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 4．心理に関する支援を要する者およびその関係者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 5．良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 6．心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。 7．心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。 8．心の健康教育について理解できる。	◎			○		○					○	○	○	
18UPWP4043	健康・医療心理学	4	1．ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2．医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3．さまざまな保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4．災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1．ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2．医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3．さまざまな保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4．災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○			◎		○				○		○		
18UPWP3063	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1．福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2．福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3．虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4．高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎		◎					○	○	○	○		
18UPWP4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々さまざまな問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理的アセスメントについて理解することが必要になる。 本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1．教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2．教育現場で必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3．児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4．教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5．保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6．教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	○			◎			○		○	○		○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP2103	司法・犯罪心理学	2	本講義は、犯罪、非行、犯罪被害および家事事件について理解するため、以下のような講義を実施する。 1．犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を身につける。 2．犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3．犯罪・非行とよばれる反社会的逸脱行動は心理的な要因のみで生じるものではなく、環境的・状況的・社会的な要因や生物学的な負因などが複合して生じることを概説する。 4．心理学が犯罪・非行領域でどのように応用・援用されているかを概説する。 5．警察、司法、矯正保護などの刑事政策に関わる諸機関の役割やそこで働く心理系専門職の実務を知る。 6．精神障害者の犯罪、精神鑑定、裁判員制度、少年司法制度など、関連する諸問題についても概説する。	1．犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を概説できる。 2．犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3．司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。 4．犯罪・非行領域における心理検査の活用や矯正処遇技法の初歩的な実践力を身につける。 5．犯罪・非行にかかわる心理実務者の仕事を知り、将来の職業選択について考える。 6．精神障害と犯罪、少年司法、裁判員制度などのテーマを通して、市民としての社会的責任を自覚するとともに、社会的な問題に対する関心を深め、生涯学習力を身につける。	◎			○							○			○
18UPWP3073	産業・組織心理学	3	職場や組織における人間行動について理解することを目的とする。さらに、職場において必要となる心理的支援およびその方法について理解する。	1．職場（キャリア形成に関することを含む）における問題に対して必要な心理に関する支援およびその方法について説明できる。 2．組織における人の行動について概説できる。	○			◎							○			
18UPWP3083	公認心理師の職責	3	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など様々な分野において、心理に関する支援を行う公認心理師の役割について理解することを目的とする。さらに、法的義務や職務上の倫理について理解し、公認心理師に求められる態度や資質の育成を目指す。	1．公認心理師の役割について理解する。 2．公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 3．心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 4．守秘義務および情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。 5．保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 6．自己課題発見・解決能力を身につける。 7．生涯学習への準備を行う。 8．多職種連携および地域連携のあり方について修得する。	○			◎					○		○	○	○	○
18UPWP3093	心　理　演　習	3	心理に関する支援を要する者等の支援についての知識および技能の基本的水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を通して学ぶ。	1．心理に関する支援を要する者等に関する①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等の知識および技能を修得する。 2．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成について修得する。 3．心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて修得する。 4．多職種連携および地域連携のあり方について修得する。 5．公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について修得する。	○	○		○		◎	○		○	◎		○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP4063	心理実習	4	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等における施設において、見学等による実習を行いながら、心理に関する支援を要する者への支援の実際について体験的に学ぶ。	1．実習施設の見学等の実習を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、身につける。 2．実習施設の見学等の実習を通して、多職種連携および地域連携の実際について、体験的に理解を深める。 3．公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を体験的に学ぶ。	○	○				○	○			○	○	○	○	◎
18UPWP4073	心理実習指導	4	心理実習を通して、体験的に学んだことを、心理に関する専門的知識および技能として整理し、体系化することを目的とする。	1．実習記録として、心理実習の内容を整理し、振り返る。 2．実習担当教員に、報告・連絡・相談を適切に行うことができる。 3．具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系だてることができる。 4．実習を通して、心理に関する支援を要する者等についての情報を収集し、課題を抽出・整理できる。	○	○				○	○			○	○	○	○	◎
18UPWP3103	心理調査概論	3	心理学におけるデータ収集方法について理解する。さらに、研究倫理について理解を深める。	1．心理調査の基本的な考え方を概説できる。 2．心理学研究における心理調査の目的とその手順を修得している。 3．心理学研究における研究倫理について理解している。	◎			◎		○					○	○		
18UPWP2113	消費者心理学	2	人々の消費行動における、意思決定に関わる社会心理学的メカニズムについて理解する。また、マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費行動を捉える能力を養うことを目標とする。	1．マーケティングの基本的な考え方を理解する。 2．消費者行動理解における心理学的観点からのアプローチの重要性を理解する。 3．心理学に限らず、関連分野にも視野を広げ多面的に消費者行動をとらえようとする姿勢を持つ。	○			○							◎			
18UPWP2123	心理学英語文献講読	2	心理学のテーマを扱った英語論文の読み方と読解の基礎について学び、各自がすでに習得している読み方のスキルを高めるだけでなく、心理学の文献を読み理解するための新たなスキルを獲得する。	1．英語論文の文章内容が把握できる。 2．英語論文の詳細が理解できる。 3．英語論文の日本語での要約ができる。	○					◎								
18UPWP2133	データ処理論Ⅰ	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1．心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2．分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○			○				◎			○			
18UPWP2143	データ処理論Ⅱ	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1．心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2．分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○			○				◎			○			
18UPWP4083	医療ソーシャルワーク	4	1．ソーシャルワークの視点とスキルは活躍する場によらず普遍的である。その一方で、的確な援助のためには分野固有の価値やシステムを意識せねばならないことを知る。 2．今日、多くの事例が保健医療と関わりを有する実態を踏まえて、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。	1．医療ソーシャルワークの基礎知識や援助技術について学ぶ。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉サービスの広がりを具体的に想起できることが目標である。 2．社会福祉の理論や実践が、現代の医療現場における困難や葛藤を緩和できる可能性について認識を新たにする。		◎									○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP4093	虐待とソーシャルワーク	4	「虐待」が社会的病理であることに理解を深める。「虐待」の心理的・社会的背景を理解し、人権擁護の視点を養う。	「子ども」「高齢者」「障害者」の領域から虐待の背景を吟味し、防止と予防の制度的課題を考える力を身につける。虐待対応におけるソーシャルワークの専門性を吟味する力を身につける。		○								◎	○	○		
18UPWP3113	スクールソーシャルワーク	3	多くの子どもたちは様々な問題に直面している。それらの問題に対し、学校を基盤に福祉的なアプローチで子どもたちの成長発達を促す環境を整えることがスクールソーシャルワークである。本授業では、日本の子どもたちが抱える問題について知り、それらをスクールソーシャルワーカーがどのような視点で捉え、どのように介入し、改善・解決を試みるのかについての理解を深める。	1．学校現場にソーシャルワーカーを導入する意義を説明できる。 2．スクールソーシャルワークの理念を説明できる。 3．近年の子どもたちを取り巻く環境や問題・課題について説明できる。 4．スクールソーシャルワーク実践に関連する実践理論・モデルおよび支援方法を説明できる。 5．スクールソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベルの実践について説明できる。		○								◎				
18UPWP4103	社会福祉事業史	4	社会福祉の歴史的展開を紐解くことにより、現代の社会福祉の意義と社会に果たす役割について考察することを目的とする。	社会福祉の歴史的な変遷を理解するとともに、現代における制度の意義も合わせて考察することが第一である。また、第二は、社会福祉士の国家試験に対応するレベルまで到達することを目標とする。		◎												
18UPWP2153	児童・家庭福祉論	2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、社会需要および児童家庭福祉制度の発展児童の権利について理解する。	社会福祉士として、児童・家庭福祉の諸問題に対応できる基礎的な力を涵養する。		○			◎						○			
18UPWP2163	障害者福祉論	2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。障害者福祉制度の発展過程や、相談援助活動法制度や実施体制を理解する。	社会福祉士として、障害者問題に対応できる基本的知識を涵養する。		○			◎						○			
18UPWP2173	高齢者福祉論	2	1．高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解する。 2．介護保険制度および高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。	1．高齢者の生活実態と福祉・介護の需要を理解し説明することができる。 2．介護保険法の概要および組織、団体の役割と実際を理解し説明することができる。 3．介護保険法における専門職の役割とネットワーキングを理解し説明することができる。 4．老人福祉法、高齢者虐待防止法、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律の概要を理解し説明することができる。		○			◎						○			
18UPWP3123	社会保障論A	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎												
18UPWP3133	社会保障論B	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎												
18UPWP3143	公的扶助論	3	低所得者等への援助に必要な知識を学ぶ。	低所得問題等の意味を理解した上で、生活保護制度や自立支援プログラムの仕組みと実際を学ぶ。		◎												
18UPWP3153	保健医療サービス	3	保健／医療／福祉分野のサービスは、根拠となる法制度は分かれても、各々密接不可分な関係にある。対人援助を志す時、保健や医療の現状を把握して、これらの制度の知識を有することは大きな力となる。保健医療が基盤とする価値、仕組み、利用者、課題と支援の体系につき理解を深める。	1．今日における保健医療サービスの現状と課題を理解することができる。 2．医療ソーシャルワーカーが保健医療分野に存在する意義について説明することができる。 3．医療保険制度の概要について説明できる。 4．保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働について説明できる。		◎												

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP3163	更生保護制度	3	社会福祉を学ぶ上で、さらには社会福祉士を目指す上で必要な更生保護制度についての基本的知識を理解することを目的としている。 更生保護とは、我が国刑事司法制度の最後を担い、犯罪をした者や非行のある少年を、社会内において指導しサポートすることによって、健全な社会人として更生させ、再犯・再非行を防ぐ働きなどを行う制度であるが、その効果をあげるために、近年特に福祉分野との連携強化が重視され、社会福祉の分野でも、更生保護への理解が必要とされるようになり、更生保護と社会福祉が相互理解の上で、互いに有効な援助機能を発揮し、再犯防止に効果を挙げ、犯罪や非行でつまずいた人々の社会適応を図っていくことが望まれている。 こうした観点から、更生保護制度への理解を深める。	1．更生保護制度全般への基本的かつ実際的な理解を深める。 2．関連の刑事司法・少年司法分野について理解する。		◎			○							○			
18UPWP3173	精神疾患とその治療Ａ	3	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。	代表的な精神疾患（統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、認知症など）の成因、病状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について説明できる。	◎	◎			○									
18UPWP3183	精神疾患とその治療Ｂ	3	１．精神疾患とその治療Ａにひきつづき、代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ２．向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について、概要を理解する。 ３．どのような場合に精神科医療機関への受診が必要か理解する。 ４．精神科病院等における専門医療の内容および特性について理解する。 ５．精神科チーム医療の重要性と、その中で精神保健福祉士・公認心理師の専門職種が担うべき役割について理解する。 ６．精神医療と福祉の連携の重要性と、精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。	１．代表的な精神疾患（発達障害など）の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について説明できる。 ２．向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。 ３．どのような場合に精神科医療機関への受診が必要か説明できる。 ４．精神科医療機関の治療構造および専門病棟について概説できる。 ５．精神科治療における人権擁護について説明できる。 ６．精神科チーム医療と精神保健福祉士・公認心理師の役割について説明できる。 ７．精神医療と福祉の連携と精神保健福祉士の役割について概説できる。	◎	◎			○									
18UPWP2183	精神科リハビリテーション学Ａ	2	１．精神科リハビリテーションの概念と構成、およびチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ２．精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術および活用の方法について理解する。	１．精神科リハビリテーションの概念、理念、意義と基本原則、構成と展開、プロセスについて説明できる。 ２．医療機関における精神科リハビリテーションに含まれる精神科専門療法（作業療法、集団精神療法、ＳＳＴなど）について説明できる。		◎			○									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP2193	精神科リハビリテーション学B	2	1．精神科リハビリテーション学Aにひきつづき、精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術および活用の方法について理解する。 2．地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。	1．医療機関における精神科リハビリテーションに含まれる精神科専門療法（心理教育、デイケア、訪問看護など）について説明できる。 2．精神科リハビリテーションにおけるチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について説明できる。 3．地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関および専門職との連携も含む）の実際について説明できる。		◎			○										
18UPWP2203	レクリエーション指導技術	2	レクリエーション活動における各種目について、その特性に基づいた適切な指導技術を理解するとともに、対象者の多様なニーズを理解し、対象者が求めるベネフィット、目的に応じた指導方法の基盤を築く。	1．対象者に応じたレクリエーション活動を適切に伝達する技能を習得する。 2．人との交流や親密さを感じさせる具体的な指導方法を習得する。		○	○			◎				○			○	○
18UPWP2213	レクリエーションの企画と運営	2	レクリエーション行事の意味と必要性、およびその企画と運営の理論や方法を理解し、実践的な授業展開を通じて、社会人基礎力の基盤を築く。	1．レクリエーション行事を企画して運営する能力、企画運営を評価する能力、フィードバックする能力を習得する。 2．企画運営のグループ活動を通じて、社会人基礎力（アクション、シンキング、チームワーク）を向上する。	○	○	○			○	◎		○	○			◎	○
18UPWP2223	レクリエーション指導法	2	さまざまな対象者に対するレクリエーションプログラムのあり方と、その効果的・効率的な運営・指導の方法を実践的に学び理解を深める。	1．レクリエーションプログラムの立案、企画、実施、評価という一連のプロセスを指導実習を通して学び、レクリエーション指導者に求められる能力を身につける。 2．集団の中でリーダーシップを発揮し、集団生活の規律を身につける。			○		○	○	○		◎	◎	◎	○	○	○
18UPWP4113	レクリエーションマネジメント	4	レクリエーション指導（支援）の意味を考え、状況に応じたレクリエーションプログラムを提供する上で必要な知識を身につけるとともに、レクリエーションを総合的に支援するマネジメントについて理解する。	1．対象者のニーズを把握し、状況に応じたレクリエーションプログラムの提供を可能にする。 2．レクリエーション事業全般を組織的・計画的に展開するための理論と方法を習得する。			○		○	○	○		◎			◎	○	○
18UPWP3193	レジャーと生活文化	3	個人のQOLの向上にむけて、地域におけるレジャー活動と生活文化の実際と活用についての理解を深める。	1．地域住民に対するレジャー参加機会の提供と活用に重点をおいた実践に役立つ知識を習得する。 2．アセスメントや情報サービス、そして生涯学習についての知識と技能を習得する。	○	○	◎		○						○	○		
18UPWP4123	福祉レクリエーション論	4	レクリエーションの基本的理解を基盤に、福祉領域におけるレクリエーション活動支援の知識を深める。	レクリエーションの基礎的概念の理解をはじめ、さまざまな福祉場面に適したレクリエーション活動支援の基本的考え方や支援者の心構えを習得する。	○	○	◎		○						◎	○		○
18UPWP3203	障害とスポーツレクリエーション	3	障がいのある人たちが行うスポーツやレクリエーション活動に関する知識と技能の基盤を築く。	1．主に初めてスポーツやレクリエーション活動をする障がい者に対し、参加することの喜びや楽しさを重視したスポーツやレクリエーション活動の導入を支援するために必要な知識と技能を習得する。 2．スポーツやレクリエーションプログラムの立案、企画、実施、評価という一連のプロセスを実践できる場面を通して、支援者に求められる能力を習得する。	○	○	◎			○				◎	○		◎	○
18UPWP3211	専門演習ＩＡ	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		○	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
18UPWP3221	専門演習ＩＢ	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		○	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWP4131	専門演習 II A	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		○	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
18UPWP4141	専門演習 II B	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		○	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
18UPWP4151	卒業論文	4	学業の最終的な仕上げとして、卒業論文を執筆する。	1．各自の研究テーマについて、卒業論文としてまとめることができる。 2．自らの研究成果をプレゼンテーションにより、他者に伝えることができる。	◎		○	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【心理・社会福祉学科】

【社会福祉コース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS3013	感情・人格心理学（人格）	3	人格（パーソナリティ）の諸理論を概観し、人格とは何かを理解し、人格がどのように形成され、表出されるのかについて学び、人格心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1．人格（パーソナリティ）の概念および形成過程について概説できる。 2．パーソナリティについて行われてきた基礎的研究について理解し、パーソナリティの類型、特性等について概説できる。 3．様々な日常場面において、パーソナリティが実際にはどのように影響するかについて学ぶ。	◎										○	○		
18UPWS4013	社会・集団・家族心理学（社会・集団）	4	社会心理学ならびに集団心理学の目的である、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するために、社会的行動の規則性ないし法則性を理解する。	1．社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解する。 2．対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できる。 3．人の態度および行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。 4．科学的な視点から人間行動を理解する方法を獲得する。 5．日常的な行動のメカニズムについて、科学的・論理的に分析することができる。 6．社会・集団心理学の知識を対人場面の問題解決に適用することができる。	○			○							◎	○	○	
18UPWS4023	社会・集団・家族心理学（家族）	4	本講義は、社会、集団、家族に関連した心理学について講義を実施する。講義では、家族、集団、文化が人に及ぼす影響について学ぶ。そして、家族や家族の心理について自分の考えを持つことができ、さらに、他の学生とも意見交換を行い、社会、集団、家族心理学について理解する。	1．家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 2．自分の考えと他者の意見を双方向に交流させることができる。 3．その上で家族と家族心理についての、自分の考えをしっかり持つことができる。	○						○			○	◎	○	○	
18UPWS3023	障害者・障害児心理学	3	各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。	1．身体障害、知的障害および精神障害について概説できる。 2．障害者、障害児の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎							○		○	○		
18UPWS4033	心理学的支援法	4	心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援の理論と技法について体系的に学ぶ。また、実際の臨床現場で心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援がどのように行われているのかも知る。	1．心理的支援を要するクライエントの心理学的問題を適切に理解する。 2．代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義および適応について概説できる。 3．訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 4．心理に関する支援を要する者およびその関係者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 5．良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 6．心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。 7．心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。 8．心の健康教育について理解できる。	◎			○							○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS4043	健康・医療心理学	4	1．ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2．医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3．さまざまな保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4．災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1．ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2．医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3．さまざまな保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4．災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○			◎		○				○		○			
18UPWS3033	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1．福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2．福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3．虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4．高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎							○	○	○	○		
18UPWS4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々さまざまな問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理的アセスメントについて理解することが必要になる。 本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1．教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2．教育現場で必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3．児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4．教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5．保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6．教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	◎			○			○		○	○		○	○	○
18UPWS2013	ソーシャルワーク論ⅠA	2	1．相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2．相談援助の対象について理解する。 3．相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4．相談援助の実際について理解する。	1．人と環境の交互作用について説明できる。 2．援助の対象について説明できる。 3．相談援助の過程について説明できる。 4．相談援助における援助関係について説明できる。 5．相談援助における面接技術について説明できる。		◎									○			
18UPWS2023	ソーシャルワーク論ⅠB	2	1．相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2．相談援助の対象について理解する。 3．相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4．相談援助の実際について理解する。	1．相談援助の過程について説明できる。 2．相談援助におけるアウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキングについて説明できる。 3．相談援助における記録の種類や方法について説明できる。 4．相談援助と個人情報の保護の意義と留意点について説明できる。 5．相談援助における情報通信技術（IT）の活用について説明できる。		◎									○			
18UPWS3043	ソーシャルワーク論ⅡA	3	1．相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 2．相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3．相談援助の実際について理解する。	1．集団を活用した相談援助について説明できる。 2．相談援助における様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。		○			◎						○			
18UPWS3053	ソーシャルワーク論ⅡB	3	相談援助における事例分析の意義と方法およびソーシャルワークによる支援の実際について理解する。	社会的排除、虐待、DVなど危機的状況にある相談援助事例についてソーシャルワークの視点から分析し、多様な理論を応用しながら問題解決に向けた支援を組み立てる基本的力量を身につける。		○			○				○	◎	○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS2033	医療ソーシャルワーク	2	1．ソーシャルワークの視点とスキルは活躍する場によらず普遍的である。その一方で、的確な援助のためには分野固有の価値やシステムを意識せねばならないことを知る。 2．今日、多くの事例が保健医療と関わりを有する実態を踏まえて、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。	1．医療ソーシャルワークの基礎知識や援助技術について学ぶ。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉サービスの広がりを具体的に想起できることが目標である。 2．社会福祉の理論や実践が、現代の医療現場における困難や葛藤を緩和できる可能性について認識を新たにする。		◎									○			
18UPWS4063	虐待とソーシャルワーク	4	「虐待」が社会的病理であることに理解を深める。「虐待」の心理的・社会的背景を理解し、人権擁護の視点を養う。	「子ども」「高齢者」「障害者」の領域から虐待の背景を吟味し、防止と予防の制度的課題を考える力を身につける。虐待対応におけるソーシャルワークの専門性を吟味する力を身につける。	○									◎	○	○		
18UPWS3063	スクールソーシャルワーク	3	多くの子どもたちは様々な問題に直面している。それらの問題に対し、学校を基盤に福祉的なアプローチで子どもたちの成長発達を促す環境を整えることがスクールソーシャルワークである。本授業では、日本の子どもたちが抱える問題について知り、それらをスクールソーシャルワーカーがどのような視点で捉え、どのように介入し、改善・解決を試みるのかについての理解を深める。	1．学校現場にソーシャルワーカーを導入する意義を説明できる。 2．スクールソーシャルワークの理念を説明できる。 3．近年の子どもたちを取り巻く環境や問題・課題について説明できる。 4．スクールソーシャルワーク実践に関連する実践理論・モデルおよび支援方法を説明できる。 5．スクールソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベルの実践について説明できる。		○								◎	○			
18UPWS2043	ソーシャルワーク演習ＩＡ	2	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 （1）総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 （2）個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。	1．自己覚知の必要性と方法を知る。 2．基本的なコミュニケーション技法と面接技法を理解し、実践できる。		○			◎	○	○		○	○		○	○	
18UPWS2053	ソーシャルワーク演習ＩＢ	2	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 （1）総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 （2）個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。	1．それぞれの事例について必要な理論と技術を具現化できる。 2．それぞれの事例に必要な知識と技術を習得する。		○			○	◎	○		○	○		○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS3073	ソーシャルワーク演習ⅡA	3	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 （1）総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 （2）個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。	ソーシャルワーク実践の展開過程で必要な知識と技術を習得する。		○			○	○	○		◎	○		○	○	
18UPWS3083	ソーシャルワーク演習ⅡB	3	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 （1）総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 （2）個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。	コミュニティワーク実践に必要な知識と技術を習得する。		○			○	○	○		◎	○		○	○	
18UPWS4073	ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 （1）総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 （2）個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。	ソーシャルワーク実践に必要な応用思考と応用動作を習得する。		○			○	○	○		○	○	◎	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS2063	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1．相談援助実習の意義について理解する。 2．相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 3．社会福祉士として求められる資質、技術、理論、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4．具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1．実習の意義および目的について理解した上で、利用者、実習現場、専門職、関連制度等に関する基本的理解をする。 2．実習生としての自覚を促し、主体的に学習する態度を身につける。 3．実習の事前学習に積極的にのぞみ、自ら配属先についての学習課題を設定・整理することができる。		○				○	○							◎	
18UPWS3093	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1．相談援助実習の意義について理解する。 2．相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 3．社会福祉士として求められる資質、技術、理論、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4．具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1．配属先についての事前学習を主体的におこない、学習課題を整理したうえで、実習計画書を作成することができる。 2．実習計画書に基づいた現場実習を円滑におこない、実習前・実習中・実習後に必要な指導を受けることができる。 3．現場実習を通して、専門職に必要とされる基本的価値・倫理、知識、技術について理解し、実習体験の成果と課題を整理・共有し、報告することができる。 4．実習を通して具体的体験を通して、理論と実践を結びつけながら、ソーシャルワークの専門性について考察することができる。		○				○	○					◎	○	
18UPWS3103	ソーシャルワーク実習	3	1．相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 2．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 3．関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。	1．施設・機関の機能および社会福祉施策・制度や利用者の抱える生活上の諸問題を総合的に理解する。 2．利用者およびその家族、関係者等を理解し、関係形成をはかりながら、利用者のニーズを把握・分析する基本的能力を身につける。 3．観察や体験を通じて、ソーシャルワークに関する価値・知識・技術を理解し、施設・機関において必要とされる生活支援や援助・介助の実際を学ぶ。 4．施設や機関内外の社会福祉専門職や関連分野の専門職の職務内容を理解し、効果的な連携のあり方について学ぶ。 5．自らの実習体験を客観的、具体的に記録化し、現状と課題について考察することができる。 6．地域社会における施設・機関の位置づけ、機能と役割、関係機関との連絡・調整について理解する。 7．事例検討を通して各種記録の意義について学び、一連の専門的支援過程の方法を具体的に理解する。 8．ケースカンファレンスや各種会議を体験し、事例研究とチームアプローチの重要性を学ぶ。		○				○	○			○		○	○	◎
18UPWS4083	社会福祉事業史	4	社会福祉の歴史的展開を紐解くことにより、現代の社会福祉の意義と社会に果たす役割について考察することを目的とする。	社会福祉の歴史的な変遷を理解するとともに、現代における制度の意義も合わせて考察することが第一である。また、第二は、社会福祉士の国家試験に対応するレベルまで到達することを目標とする。		◎												
18UPWS2073	児童・家庭福祉論	2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、社会需要および児童家庭福祉制度の発展児童の権利について理解する。	社会福祉士として、児童・家庭福祉の諸問題に対応できる基礎的な力を涵養する。		○			◎						◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS2083	障害者福祉論	2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。障害者福祉制度の発展過程や、相談援助活動法制度や実施体制を理解する。	社会福祉士として、障害者問題に対応できる基本的知識を涵養する。		○			◎						◎			
18UPWS2093	高齢者福祉論	2	1．高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解する。 2．介護保険制度および高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。	1．高齢者の生活実態と福祉・介護の需要を理解し説明することができる。 2．介護保険法の概要および組織、団体の役割と実際を理解し説明することができる。 3．介護保険法における専門職の役割とネットワーキングを理解し説明することができる。 4．老人福祉法、高齢者虐待防止法、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律の概要を理解し説明することができる。		○			◎						○			
18UPWS2103	介護概論	2	1．介護の概念や対象および介護予防の考え方について理解する。 2．介護過程における介護の技法および介護と住環境について理解する。 3．終末期ケアおよび認知症ケアについて理解する。	1．介護の概念や対象および介護予防の基本的考え方を理解し説明することができる。 2．介護過程における介護の技法および介護と住環境を理解し説明することができる。 3．認知症ケアおよび終末期ケアを理解し説明することができる。		○			◎						○			
18UPWS2113	地域福祉論A	2	地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、関係機関・組織およびソーシャルワーク専門職の役割と実際について理解する。	地域を基盤としたソーシャルワーク専門職の理論と実践について学び、地域社会における課題を自ら発見し、分析する方法を習得する。		○			◎				○		○			
18UPWS2123	地域福祉論B	2	地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法および地域福祉の推進方法について理解する。	地域を基盤としたソーシャルワーク専門職の理論と実践について学び、具体的地域課題を解決するための展開過程を考え、企画・提案する方法を習得する。		○			○	◎			○		○			
18UPWS2133	社会調査法	2	本講義ではソーシャルワーク実践に必要とされる社会調査の意義や方法の概要について理解する。 （1）社会調査の設計や実施、分析に係る方法についての基本的知識や技術を学習する。 （2）卒業論文の研究方法に関する基盤を得る。 （3）情報収集、分析、解釈の力を養う。 （4）国家資格取得試験に必要な社会調査法の知識を得る。	1．図書館･データベースを使った文献検索をマスターする。 2．グループワークによる協働作業を通して方法を理解する。 3．量的調査について理解する。 4．質的調査について理解する。 5．量的調査と質的調査の違いについて理解する。		○					○	◎	○		○			
18UPWS3113	現代社会と福祉A	3	現代社会における福祉の意義とともに福祉の基礎的な知識を学ぶ。	福祉の原理、福祉制度・政策、相談援助活動等を中心に福祉の基礎的な知識を学ぶ。		◎												
18UPWS3123	現代社会と福祉B	3	現代社会における福祉のあり方について思想面および政策面から学ぶ。	福祉の原理、福祉政策等を中心に福祉の基礎的な知識を学ぶ。		◎												
18UPWS3133	社会保障論A	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎												
18UPWS3143	社会保障論B	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎												

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS3153	公的扶助論	3	低所得者等への援助に必要な知識を学ぶ。	低所得問題等の意味を理解した上で、生活保護制度や自立支援プログラムの仕組みと実際を学ぶ。		◎												
18UPWS3163	保健医療サービス	3	保健／医療／福祉分野のサービスは、根拠となる法制度は分かれても、各々密接不可分な関係にある。対人援助を志す時、保健や医療の現状を把握して、これらの制度の知識を有することは大きな力となる。保健医療が基盤とする価値、仕組み、利用者、課題と支援の体系につき理解を深める。	1．今日における保健医療サービスの現状と課題を理解することができる。 2．医療ソーシャルワーカーが保健医療分野に存在する意義について説明することができる。 3．医療保険制度の概要について説明できる。 4．保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働について説明できる。		◎												
18UPWS3173	就労支援	3	相談援助活動において、必要となる各種の就労支援制度、就労支援に係る組織・団体専門職の役割と連携について理解する。	社会福祉士として、就労支援が行える基本的な力を涵養する。		○			○						◎			
18UPWS3183	更生保護制度	3	社会福祉を学ぶ上で、さらには社会福祉士を目指す上で必要な更生保護制度についての基本的知識を理解することを目的としている。 更生保護とは、我が国刑事司法制度の最後を担い、犯罪をした者や非行のある少年を、社会内において指導しサポートすることによって、健全な社会人として更生させ、再犯・再非行を防ぐ働きなどを行う制度であるが、その効果をあげるために、近年特に福祉分野との連携強化が重視され、社会福祉の分野でも、更生保護への理解が必要とされるようになり、更生保護と社会福祉が相互理解の上で、互いに有効な援助機能を発揮し、再犯防止に効果を挙げ、犯罪や非行でつまずいた人々の社会適応を図っていくことが望まれている。 こうした観点から、更生保護制度への理解を深める。	1．更生保護制度全般への基本的かつ実際的な理解を深める。 2．関連の刑事司法・少年司法分野について理解する。		○			○						◎			
18UPWS4093	福祉行財政と福祉計画	4	福祉行財政と福祉計画の制度的な仕組みと意義を学ぶ。	福祉行政・福祉財政に関する基本的知識を理解した上で、福祉計画の目的・理論を学ぶ。		◎												
18UPWS3193	福祉サービスの組織と経営	3	福祉サービスにかかる組織や団体を理解する。	福祉サービス提供組織の経営について理解し、さらに管理運営方法の実際を学ぶ。		◎					○							
18UPWS2143	精神保健福祉制度論A	2	精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法等）との関わりについて理解する。	下記の項目について学ぶことで、精神障害者を取り巻く社会状況について理解を深める。 （1）精神保健福祉法の意義と内容 （2）精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス （3）精神障害者に関連する社会保障制度の概要 （4）相談援助に係わる組織、団体、関係機関および専門職や地域住民との協働		◎									○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS2153	精神保健福祉制度論Ｂ	2	精神障害者の支援の視点からみた更生保護制度や医療観察法について理解する。	下記の項目について学ぶことで、精神障害者と司法の関係について理解を深める。 （１）更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係 （２）更生保護制度における関係機関や団体との連携 （３）医療観察法の概要 （４）医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割 （５）犯罪被害者との関係		◎									○			
18UPWS2163	精神障害者の生活支援システム	2	１．精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 ２．精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 ３．職業リハビリテーションの概念および精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 ４．行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。	下記の項目について理解し、精神障害者の生活像を捉える。 （１）精神障害者の概念 （２）精神障害者の生活の実際 （３）精神障害者の生活と人権 （４）精神障害者の居住支援 （５）精神障害者の就労支援 （６）精神障害者の生活支援システム （７）市町村における相談援助 （８）その他の行政機関における相談援助		◎									○			
18UPWS2173	精神疾患とその治療Ａ	2	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。	代表的な精神疾患（統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、認知症など）の、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について説明できる。	◎	◎			○									
18UPWS2183	精神疾患とその治療Ｂ	2	１．精神疾患とその治療Ａにひきつづき、代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ２．向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について、概要を理解する。 ３．どのような場合に精神科医療機関への受診が必要か理解する。 ４．精神科病院等における専門治療の内容および特性について理解する。 ５．精神科チーム医療の重要性と、その中で精神保健福祉士・公認心理師等の専門職種が担うべき役割について理解する。 ６．精神医療と福祉の連携の重要性と、精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。	１．代表的な精神疾患（発達障害など）の、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について説明できる。 ２．向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。 ３．どのような場合に精神科医療機関への受診が必要か説明できる。 ４．精神科医療機関の治療構造および専門病棟について概説できる。 ５．精神科治療における人権擁護について説明できる。 ６．精神科チーム医療と精神保健福祉士・公認心理師の役割について説明できる。 ７．精神医療と福祉の連携と精神保健福祉士の役割について概説できる。	◎	◎			○									
18UPWS2193	精神科リハビリテーション学Ａ	2	１．精神科リハビリテーションの概念と構成、およびチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ２．精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術および活用の方法について理解する。	１．精神科リハビリテーションの概念、理念、意義と基本原則、構成と展開、プロセスについて説明できる。 ２．医療機関における精神科リハビリテーションに含まれる精神科専門療法（作業療法、集団精神療法、ＳＳＴなど）について説明できる。		◎			○									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS2203	精神科リハビリテーション学B	2	1．精神科リハビリテーション学Aにひきつづき、精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術および活用の方法について理解する。 2．地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。	1．医療機関における精神科リハビリテーションに含まれる精神科専門療法（心理教育、デイケア、訪問看護など）について説明できる。 2．精神科リハビリテーションにおけるチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について説明できる。 3．地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関および専門職との連携も含む）の実際について説明できる。		◎			○									
18UPWS3203	精神保健福祉援助技術各論A	3	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整および家族支援を含む）の展開について理解する。	精神保健福祉援助技術に関する下記の項目について実践的に理解することができる。 （1）相談援助の過程および対象者との援助関係 （2）相談援助活動のための面接技術 （3）相談援助活動の展開 （4）家族調整・支援の実際と事例分析		○			◎	○			○					
18UPWS3213	精神保健福祉援助技術各論B	3	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。	精神保健福祉援助技術に関する下記の項目について実践的に理解することができる。 （1）地域移行の対象および支援体制 （2）精神障害者のケアマネジメント （3）地域を基盤にした支援とネットワーキング （4）地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開		○				◎			○					
18UPWS4103	精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例を活用し実践的に習得する。 （1）社会的排除 （2）退院支援、地域移行、地域生活継続 （3）ピアサポート （4）地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等） （5）教育、就労（雇用） （6）貧困、低所得、ホームレス （7）精神科リハビリテーション （8）その他の危機状態にある精神保健福祉		○			○	◎	○		○	○		○	○	
18UPWS4113	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1．次に掲げる具体的な相談援助を実践的に学ぶ。 （1）インテーク（受理面接） （2）契約 （3）アセスメント（課題分析） （4）プランニング（支援の計画） （5）支援の実施 （6）モニタリング（経過観察） （7）効果測定と支援の評価 （8）終結とアフターケア 2．上記指導に当たっては、次に掲げる内容を含める。 （1）アウトリーチ （2）ケアマネジメント （3）チームアプローチ （4）ネットワーキング （5）社会資源の活用・調整・開発		○			○	◎	○		○	○		○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS3223	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	下記の項目について理解できる。 （1）精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導および集団指導の意義 （2）精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解 （3）実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解		○				○	○						◎	
18UPWS4123	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。	下記の項目について理解できる。 （1）実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 （2）精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 （3）実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 （4）「実習記録ノート」への記録内容および記録方法に関する理解 （5）巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） （6）実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 （7）実習の評価全体総括会		○				○	○						◎	
18UPWS4133	精神保健福祉援助実習Ａ	4	１．精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ２．精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ３．精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ４．総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。	地域の障害福祉サービス事業を行う施設等の実習を通して、下記の視点を学ぶ。 （1）利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 （2）支援計画の作成 （3）利用者やその関係者との支援関係の形成 （4）利用者やその関係者への権利擁護および支援とその評価 （5）精神医療・保健・福祉に係る多職種連携の実際 （6）精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 （7）施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 （8）施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 （9）地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解		○				○	○			○		○	○	◎
18UPWS4143	精神保健福祉援助実習Ｂ	4	１．精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ２．精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ３．精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ４．総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。	１．精神科病院において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 （1）入院時または急性期の患者およびその家族への相談援助 （2）退院または地域移行・地域支援に向けた、患者およびその家族への相談援助 （3）多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ２．精神科診療所において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 （1）治療中の患者およびその家族への相談援助 （2）日常生活や社会生活上の問題に関する、患者およびその家族への相談援助 （3）地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助		○				○	○			○		○	○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS4153	社会福祉特講	4	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験に合格する学力を修得する。	1．相談援助の基盤や理論が説明できる。 2．社会調査の方法や留意点について説明できる。 3．人体の構造・機能・疾病について説明できる。 4．心理学理論や心理的支援について説明できる。 5．社会理論と社会システムについて説明できる。 6．更生保護について説明できる。 7．地域福祉の理論と方法について説明できる。 8．高齢者に対する支援と介護保険制度について説明できる。		○									◎			
18UPWS2213	レクリエーション指導技術	2	レクリエーション活動における各種目について、その特性に基づいた適切な指導技術を理解するとともに、対象者の多様なニーズを理解し、対象者が求めるベネフィット、目的に応じた指導方法の基盤を築く。	1．対象者に応じたレクリエーション活動を適切に伝達する技能を習得する。 2．人との交流や親密さを感じさせる具体的な指導方法を習得する。		○	○			◎				○			○	○
18UPWS2223	レクリエーションの企画と運営	2	レクリエーション行事の意味と必要性、およびその企画と運営の理論や方法を理解し、実践的な授業展開を通じて、社会人基礎力の基盤を築く。	1．レクリエーション行事を企画して運営する能力、企画運営を評価する能力、フィードバックする能力を身につける。 2．企画運営のグループ活動を通じて、社会人基礎力（アクション、シンキング、チームワーク）を向上する。	○	○	○			○	◎		○	○			◎	○
18UPWS2233	レクリエーション指導法	2	さまざまな対象者に対するレクリエーションプログラムのあり方と、その効果的・効率的な運営・指導の方法を実践的に学び理解を深める。	1．レクリエーションプログラムの立案、企画、実施、評価という一連のプロセスを指導実習を通して学び、レクリエーション指導（支援）者に求められる能力を身につける。 2．集団の中でリーダーシップを発揮し、集団生活の規律を身につける。			○		○	○	○		◎	◎	◎	○	○	○
18UPWS4163	レクリエーションマネジメント	4	レクリエーション指導（支援）の意味を考え、状況に応じたレクリエーションプログラムを提供する上で必要な知識を身につけるとともに、レクリエーションを総合的に支援するマネジメントについて理解する。	1．対象者のニーズを把握し、状況に応じたレクリエーションプログラムの提供を可能にする。 2．レクリエーション事業全般を組織的・計画的に展開するための理論と方法を習得する。			○		○	○	○		◎			◎	○	○
18UPWS3233	レジャーと生活文化	3	個人のQOLの向上にむけて、地域におけるレジャー活動と生活文化の実際と活用についての理解を深める。	1．地域住民に対するレジャー参加機会の提供と活用に重点をおいた実践に役立つ知識を習得する。 2．アセスメントや情報サービス、そして生涯学習についての知識と技能を習得する。	○	○	◎		○						○	○		
18UPWS4173	福祉レクリエーション論	4	レクリエーションの基本的理解を基盤に、福祉領域におけるレクリエーション活動支援の知識を深める。	レクリエーションの基礎的概念の理解をはじめ、さまざまな福祉場面に適したレクリエーション活動支援の基本的考え方や支援者の心構えを習得する。	○	○	◎		○						◎	○		○
18UPWS3243	障害とスポーツレクリエーション	3	障がいのある人たちが行うスポーツやレクリエーション活動に関する知識と技能の基盤を築く。	1．主に初めてスポーツやレクリエーション活動をする障がい者に対し、参加することの喜びや楽しさを重視したスポーツやレクリエーション活動の導入を支援するために必要な知識と技能を習得する。 2．スポーツやレクリエーションプログラムの立案、企画、実施、評価という一連のプロセスを実践できる場面を通して、支援者に求められる能力を習得する。	○	○	◎			○				◎	○		◎	○
18UPWS3251	専門演習ＩＡ	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○		○	○		○	○	○	○	◎	◎	
18UPWS3261	専門演習ＩＢ	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○		○	○		○	○	○	○	◎	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現					3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
18UPWS4181	専門演習 II A	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○		○	○		○	○	○	○	◎	◎	
18UPWS4191	専門演習 II B	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。		○	○		○	○		○	○	○	○	◎	◎	
18UPWS4201	卒業論文	4	学業の最終的な仕上げとして、卒業論文を執筆する。	1．各自の研究テーマについて、卒業論文としてまとめることができる。 2．自らの研究成果をプレゼンテーションにより、他者に伝えることができる。		○	○		○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	